

# CLiCKS: iPhone®を活用する 英語学習・学生生活支援システム

西垣内 泰介 神戸松蔭女子学院大学文学部英語学科  
松田 謙次郎 神戸松蔭女子学院大学文学部英語学科  
Philip Spaelti 神戸松蔭女子学院大学文学部英語学科  
田中 美奈 神戸松蔭女子学院大学文学部英語学科  
〒 657-0015  
神戸市灘区篠原伯母野山町 1-2-1  
☎ 078-882-6122 · Fax. 078-882-5032  
✉ gauchi@shoin.ac.jp

神戸松蔭女子学院大学文学部英語学科では、2011年度から CLiCKS (Campus Life Community of Kobe Shoin) という iPhone®を端末として用いるネットワークシステムを発足させ、授業だけでなく、日常生活の中で英語教材を学生へのメッセージとして発信し、また学生と教員間のコミュニケーションのツールとして英語学習だけでなく学生生活を全体的にサポートするコミュニティ・システムを展開している。

CLiCKS は、技術的には既存のテクノロジーを使用したもので新奇性はないが、まったくゼロから出発して、本学英語学科のニーズのためにカスタマイズして創造されたもの、という意味では世界にも同様の例は少ないのではないと思われるオリジナルなシステムである。

## 1 背景となる問題点

**学力の個人差** 英語力に関して、高校までの習熟度にばらつきがあるので授業内だけですべてのレベルの学生に合わせた学習が困難である。

**学習の習慣** 高校までに自分で学習をするという習慣ができていない学生が増加している。そのような学生は大学での英語学習に対して敷居が高いと感じている。

**コミュニケーションの不足** 学生同士、学生と教職員のコミュニケーションが希薄になりつつある。また、自分で友だちを作れない、大学生活の中で疎外を感じている学生が増加している。

**コンピュータ・リテラシーの不足** 英語系の学科としてはコンピュータ関係の授業に力を入れているが、コンピュータに親しむ学生とそうでない学生の差が大きい。

## 2 CLiCKS の概要

### 2.1 CLiCKS の端末：iPhone

CLiCKS の端末 iPhone® は 2011 年度から英語学科の 1 年生全員に 2 年間無償で貸与する。インターネット接続、メールなどにかかるパケット通信料金や基本使用料は大学が負担、通話料、有料アプリなどは学生の自己負担。

また、CLiCKS の稼働を機に学内で英語学科の授業が行われる教室棟や学生食堂などに無線 LAN を設置、より高速な通信環境を整備している。(2011 年後期に本格的整備が完成する。)

### 2.2 ポッドキャスト (Podcast)

CLiCKS はメッセージ・システムであるが、CLiCKS の中で交わされるメッセージの中で最も重要なものが**ポッドキャスト (Podcast)** というマルチメディアの音声トラックである。主に英語ネイティブの教員が音声と文字からなる短いメッセージを学科の学生に宛てて発信するもので、現在週に 3 回程度発信されており、これらに対して学生が英語のメッセージを返信し、そこから対話が続くこともたびたびである。

CLiCKS のシステムの中に PodcastCreator というアプリケーションが組み込まれており、教員はこれを使って自分の PC で手軽に Podcast を作成、発信できるようになっている。

Podcast は現在主に授業外で発信されることが多いが、授業の中で活用することも勿論可能である。**ユビキタス (ubiquitous) な英語学習の環境**が実現している。

### 2.3 授業内での活用

CLiCKS システムには**小テスト**を作成してクラス単位で学生の iPhone®に発信する機能もある。最大で 8 の選択肢からなるクイズ問題を生成、発信し、指定の時間内に学生が自分の iPhone®から答案を提出、提出時に同時に成績と正解が提示される。

また、上記 Podcast の内容に基づいて別の教員がクイズ (小テスト) を作成し、発信するという形で教員間の連携で学生に教材を提示することもしばしばである。

CLiCKS の小テストは学生、教員のそれぞれのアカウントの中に正解と成績が記録され、学生にとっては自分の成績把握と復習に、教員にとっては学生の成績把握と問題の検討などに役立てられるようになっている。

また、メッセージ・システムの手軽さを活用して、授業

の中で練習問題の解答をメッセージとして教員に送らせることもできる。教員は即座に正誤を指摘し、誤った問題については正解にたどり着くまで繰り返し解答を送らせることができる。また、授業時間外に課題を提出させ、同様に正解まで導く対話も行っている。

#### 2.4 学生・教員のコミュニケーション

CLiCKSでは学科全体、クラス単位、グループ単位、個人同士などでメッセージを送り合うことができ、授業以外の時間には自由にコミュニケーションを行っている。

この点では学内のハンバーガー店の店長が CLiCKS にメッセージを送り、クイズなどによって学生にクーポン券をあげるなどで積極的に関わって下さっており、学生の CLiCKS への関心を高めることに貢献している。

CLiCKS のメッセージは**写真**と**位置情報**を送ることができるので、友だちとのコミュニケーション、友だち作りに役立てられるだけでなく、日記として用いることもでき、学生時代の4年間私はどこで何を見たかをすべて記録した膨大な卒業アルバムを作ることができる。(卒業時に DVD-R にして個々の学生にプレゼントする予定。)

#### 2.5 在校生・上級生の協力

2010年の在校生ガイダンスの時に2011年度からのこのプロジェクトについてアナウンスし、開発に向けての学生の視点からの協力を募ったところ多くの学生が熱意ある反応を示し、協力を申し出てくれた。

これらの学生にソフトバンク社からご厚意により無償でレンタルさせて頂いたオープンキャンパスおよびモニター用の iPhone® を貸与し、開発途中の CLiCKS を使用し、CLiCKS のメッセージ・システム上だけでなく開発会社の技術者をまじえたヒアリングの会合を定期的に行い、この中で出された多くの意見が CLiCKS の内容に取り入れられている。この意味で、CLiCKS は**開発に学生が参加したシステム**ということができる。

2011年度に CLiCKS が本格稼働を始めた後も上級生の協力は続いており、「CLiCKS リーダー・グループ」として、開発会社の技術者と定期的な意見交換の会を持ちながら、まだ使用に慣れていない1年生が CLiCKS を活用してくれる方向での提言やシステム改善に向けての指摘や提案を行っている。

CLiCKS リーダー・グループの活動は2011年7月に学内にむけた報告会を行い、8月に広く学外にむけたシンポジウムの中で報告する予定である。

#### 2.6 さらなる発展

ポッドキャストとして発信される英語音声メッセージを活用し、**音声ファイルを画像と結合させたムービー**を学生に作成させるという作業を「英語コンピュータ概論・特論」という授業で行っている。

この試みは現在進行中であるが、学生がムービーに変身

させたポッドキャスト・メッセージをアーカイブにして置いておくウェブサイトを作り、学外にも発信する予定である。(発表の時点では稼働している予定。)

### 3 Solution CLiCKS

**学力の個人差** メッセージ・システムを活用した指導によって個々の学生が自分で正解にたどり着くまで指導することが可能になっている。小テスト機能を駆使することで学生の成績、到達度をきめ細かく把握することが可能になっている。また学生はそれぞれの力や意欲に応じてポッドキャストのメッセージに反応している。

**学習の習慣** CLiCKS は学生が常に英語とふれる (ubiquitous) 環境を提供している。友だちとのメッセージ交換、教員特にネイティブの教員とのコミュニケーションの中で**遊びと学びがシームレス**につながり、「勉強する」という意識を持たないうちに語学の学習ができる。実際、CLiCKS のメッセージは英語を用いるようにという指導は特にしていないが学生は自発的に英語でメッセージを書いていることが多い。教室でも英語で反応することが多くなった。

**コミュニケーションの不足** 学生・教員間のコミュニケーションが授業内外で可能になっている。例えばある学生がコンサートについての書き込みをし、それに返信した学生と友だちになったといったことがあり、友だち作りに役立っている。

**コンピュータ・リテラシーの不足** スマートフォンに慣れ親しむことでコンピュータ・リテラシーを自然に身につけている。上級生はマルチメディア英語教材を作る作業の中でコンピュータ運用能力が高まっている。

#### 謝辞

私どもが現在 CLiCKS と呼んでいるシステムについてイメージし、ディスカッションを始めたのは、2009年の夏頃のこと、その時点ではその先にどのようなシステムが生まれるのか、私どもだけではなく実際に開発に携わって下さった技術部門の方々にもまったく見えないものであった。そこから少しずつイメージを作り、具体的なシステムに実現していくというのは、普通ではあり得ないような作業である。そのような過程で実現まで導いて下さった、次の各社のみなさんに心から謝意を表したい。株式会社イナハラ、株式会社エステック、株式会社システム・クリニック、ソフトバンク・テレコム株式会社。またこの取り組みは全学の通信環境に影響を及ぼすもので、本学情報教育センター、システム管理課のご尽力がなければ実現しなかった。もちろん、開発から現在も改善と発展に向けて尽力してくれている神戸松蔭女子学院大学英語英米文学科、大学院言語科学専攻の学生のみなさんに敬意と謝意を表さねばならない。